

2020年冬40号記念ゆるくるジャーナルに掲載



鳥から 福祉作業所発の薬草ビジネス、 入浴剤とお香

吉田祐貴

一般社団法人「百人邑」は、障害者の就労継続（A型）と自立訓練を支援する多機能事業所。広島市安佐北区にあります。約10人の就労者がスタッフや地域の農家とともに、薬草のトウキとミシマサイコの栽培や加工をしています。薬草づくりは2014年にスタート。トウキとサイコはどちらも根を利用しますが、ものになるまで3年もかかります。その間、葉や茎で商品化できないかと、就労者で話し合いを重ねました。トウキの葉や茎は自然乾燥させて入浴剤にしました。6包入りで税込2000円です。サイコのほうはお香にすることにしましたが、乾燥後のヒビ割れや燃焼速度、香りの調合などで失敗の連続。京都で1000年続く老舗の線香屋「徳泉堂」に相談して完成しました。サイコにカモミールを加え、粉にしてから円錐形に成形します。



お香と竹細工箱

できたお香は化粧箱（12個）入り2000円、竹細工箱（10個）入り3000円。サイコの甘い香りに心安らぎます。19年11月から販売を開始。竹細工の箱は、裏山にたくさん生えた竹を見ていた就労者のアイデアです。百人邑では、薬草の栽培や加工、商品企画、販売まで、すべてを就労者が協力して行なっています。就労者には、作業に対する責任感とやる気を感じられます。

